

石狩海岸における国内外来種ニホンイシガメ (*Mauremys japonica*) の初確認

First record of introduced Japanese pond turtle

(*Mauremys japonica*) at Ishikari Coast

更科 美帆^{*1}・高橋 恵美^{*2}

Miho SARASHINA・Emi TAKAHASHI

キーワード：国内外来種，ニホンイシガメ，親船名無沼，飼育放棄，ペット

はじめに

北海道には本来、淡水性のカメ類は生息しておらず、現在、野外に生息する淡水性のカメ類は全て外来種である。これまで、道内では複数の市町村で外国産のミシシippアカミミガメ (*Trachemys scripta elegans*) やクサガメ (*Mauremys reevesii*) の定着が確認されているほか (徳田, 2022), カミツキガメ (*Chelydra serpentina*) や、日本固有種であるニホンイシガメ (*M. japonica*) が単発的に確認された事例がある (門崎, 1981; 平田, 2007)。

石狩市内ではこれまで、2016年8月にミシシippアカミミガメ1匹が市内の道路上で見つかり石狩浜海浜植物保護センターに持ち込まれた事例があるが (高橋, 未発表), それ以降、淡水性のカメ類の確認はなかった。本報告では、石狩市親船町に位置する親船名無沼にて、石狩市で初めてニホンイシガメを生体捕獲した事例について報告する。

捕獲地点及び方法

親船名無沼 (以下、名無沼) は、石狩市親船町に位置する (図1)。名無沼では、北海道生物の多様性の保全等に関する条例で指定外来種に指定されているアズマヒキガエル (*Bufo formosus*) が2011年頃から確認されており (内藤・志賀, 2016), 2017年からは毎年、継続的に捕獲防除が行われている (更科ほか, 2021; リンクアス, 2021; 2022; 2023)。



図1. 親船名無沼の位置図 (黒破線：親船名無沼)

*1 リンクアス 〒062-0902 札幌市豊平区豊平2条7丁目1-25

*2 石狩市自然保護課 〒061-3292 北海道石狩市花川北6条1丁目30番地2

捕獲場所は、名無沼付近の草地である(図2, 3)。同地点にて、カメ類を目視にて確認し、手捕りにより捕獲した。捕獲した個体は持ち帰り、甲長、甲高、甲幅、体重を記録し種同定を行った。



図2. 親船名無沼と捕獲地点の位置図 (白破線：捕獲地点)



図3. 捕獲地点の様子 (白破線：捕獲地点)

結果

2024年8月15日13時30分頃、名無沼の北側に位置する石狩樽川海岸線(通称、海岸道路)脇の草地内にてカメ類を目視にて確認した(図4)。カメ類は名無沼方向へと逃走したが、素手での捕獲に成功した。

捕獲個体は、甲長67.0mm、甲高25.4mm、甲幅53.3mm、体重42gのメスであった。頭部から背甲は黄褐色(図5)、四肢と腹甲は黒褐色を

しており(図6)、背甲の後縁が鋸歯状であったことから、ニホンイシガメの幼体と判断した。加賀山・西堀(2021)が推定した成長曲線を参考にすると、この個体は2歳前後の幼体であると推測される。捕獲後、ニホンイシガメはピンセットから直接餌を食べることができ、相当に人馴れした個体であることがわかった。また糞内容の分析を試みたが、排泄物は泥状であり、餌生物の有無等の特定には至らなかった。



図4. カメ類を目視確認したときの状況 (白破線：カメ類)



図5. 2024年8月15日に親船名無沼付近にて捕獲したカメ(背面)



図6. 2024年8月15日に親船名無沼付近にて捕獲したカメ(腹面)

考 察

ニホンイシガメは本州, 四国, 九州に自然分布する日本の固有種であるが, ペットとしての流通が多く (楠田, 2019), 原産地では流通のための乱獲や大量遺棄などが起こっている. 今回捕獲したニホンイシガメは相当に人馴れした個体であったことから, ペットとして個人に飼われていた個体がなんらかの理由で名無沼付近に飼育放棄されたものと考えられる.

ニホンイシガメは低地から山地の河川, 湖沼, 水田, 水路などの水辺に生息することが多く, 水辺脇の陸地や流木, 石の上等で日光浴を行うことが知られることから (例えば, 松久保, 2005; 矢部, 2007; 小賀野, 2017), 捕獲した際にも, 名無沼の脇の草地上で日光浴をしていたものと考えられる. しかし 2017 年以降, 名無沼では継続的にアズマヒキガエルの捕獲防除が行われており, 名無沼やその周辺では頻繁に見回りが行われているが, ニホンイシガメ等のカメ類が日光浴をしているような姿はこれまで確認されていなかった. 名無沼の周辺には石狩浜海水浴場 (あそびーち石狩), 石狩浜海浜植物保護センター, はまなすの丘ヴィジターセンター等の施設があり, 夏場に多くの観光客が訪れるエリアとなっている. また, アライグマ (*Procyon lotor*) の出没状況の確認のために筆者が設置した自動撮影カメラでは, 昼夜を問わず, 多くの人が名無沼を覗き込む様子が撮影されていた.

捕獲個体が相当に人馴れした幼体であったこと, これまで名無沼ではカメ類が日光浴する姿を確認していないこと, 名無沼は多くの人が昼夜を問わず訪れる場所であることから, 今回捕獲されたニホンイシガメは, 最近になって人為的に名無沼に遺棄された個体であると推測される.

カメ類はペットとしての需要があり, 店頭のみならずインターネットでも安易に購入することができる. 一方で, ミシシippアカミミガメ等, 多

くのカメ類が飼育放棄され野外に遺棄されている現状がある. カメ類は寿命が長く, 繁殖ができない状況下であっても生存する個体群があると想定され (小菅, 2006), また強力な捕食者でもあることから (平田, 2007), 適切な対応が必要であると考えられる. 都市部では, 公園を利用する人は公園に生息するカメ類に好感を持つ一方で, 外来カメ類の問題については詳しく知らない人が多いことがわかっている (田村・倉本, 2012). 石狩浜周辺は自然豊かな場所であるが, 人の出入りが非常に多いことから, ペット動物の飼育に関連する情報や終生飼育の認知向上等, 生物多様性保全のための普及啓発等の対策が, より一層必要であると考えられる.

謝辞: 北海道爬虫両棲類研究会会長の徳田龍弘氏には, ニホンイシガメの種同定に関してご協力いただいた. この場を借りて深く感謝申し上げる.

引用文献

- 平田剛士, 2007. 「侵略」の歩みは遅くない? 北海道カメ事情. 特集 外来動物の今—生物多様性の危機を前に. モーリー, 17: 20-23.
- 加賀山翔一・西堀智子, 2021. ラムサール条約湿地・中池見湿地におけるニホンイシガメの個体群構造と成長. 伊豆沼・内沼研究報告, 15: 1-13.
- 門崎允昭, 1981. 野幌丘陵とその周辺の自然と歴史. 北海道開拓記念館研究報告, 6: 25-38.
- 楠田哲士, 2019. ニホンイシガメの生息域外保全に向けた考え方の整理と全国の取り組み事例の紹介. 亀楽, 17: 10-18.
- 小菅康弘, 2006. 日本産淡水水生カメ類の生息地保全のための全国的な調査の提唱. 第 44 回 日本爬虫両棲類学会大会記録, 爬虫両棲類学会報, 1: 51-87.
- リンクアス, 2021. 令和 3 年度委託業務 石狩浜外来種防除手法の検討業務委託報告書. 石狩市, 82pp.
- リンクアス, 2022. 令和 4 年度委託業務 石狩浜外

- 来種防除手法の検討業務委託報告書. 石狩市,
101pp.
- リンクアス, 2023. 令和5年度委託業務 石狩市外来
種防除業務委託報告書. 石狩市, 46pp.
- 松久保晃作, 2005. イシガメの里. 株式会社小峰書店,
東京, 44 pp.
- 内藤華子・志賀健司, 2016. 石狩川河口左岸域にお
けるヒキガエルの定着について. いしかり砂丘の
風資料館紀要, 6: 65-70
- 小賀野大一, 2017. 無防備な春のニホンイシガメ.
亀楽, 13: 12-13.
- 更科美帆・高橋恵美・秦(鈴木)あいら・吉田剛司,
2021. 石狩浜における国内外来種アズマヒキガ
エル (*Bufo japonicus formosus*) の防除活動に
関する報告. いしかり砂丘の風資料館紀要, 11:
25-35.
- 田村成実・倉本 宣, 2012. 公園利用者のカメに対す
る動物観動物観. 研究:ヒトと動物の関係学会誌,
17: 29-32.
- 徳田龍弘, 2022. 増補新版 北海道 爬虫類・両生類
ハンディ図鑑. 北海道新聞社, 札幌, 104pp.
- 矢部隆, 2007. ニホンイシガメ. 今, 絶滅の恐れが
ある水辺の生き物たち (内山りゅう 編), 山と溪
谷社, 東京, 107-126.